

令和5年度第1回経営会議 会議概要

1 開催日時

令和5年6月15日（木） 13：30～15：45

2 場 所

本部棟3階 大会議室

3 出席者（委員11名中10名出席）

学外委員：木村委員、菅原委員、菅委員、小原委員、谷藤委員、佐々木委員
（欠席：谷村委員）

学内委員：千葉委員、鈴木委員、宮野委員、亀田委員

4 報告事項

報告に先立ち、委員及び本部長、学部長を御紹介した。また経営会議の所掌事項について事務局より説明した。

(1) 岩手県立大学本庄照子奨学金の採用者決定について

奨学金の採用者決定について事務局より説明した。

(2) 令和5年度における新型コロナウイルス感染症対策の状況等について

本学の新型コロナウイルス感染症対策の状況等について、事務局から資料に基づき説明した。

(3) 岩手県立大学開学25周年記念式典等について

開学25周年記念式典等について、事務局から資料に基づき説明した。

(4) 令和5年度科研費の新規採択状況等について

科研費の新規採択状況について、事務局から資料に基づき説明した。

(5) その他

① 物価高に対する経済対策支援事業について

物価高に対する経済対策支援事業について事務局から資料に基づき説明した。補足として、未申請の学生に対して、現在受付を延長して、再度周知を図っている旨説明があった。

- ② 岩手県立大学防災復興支援センター設立シンポジウムの開催について
防災復興支援センター設立シンポジウムの開催について、事務局から資料に基づき説明した。

5 意見交換

本学の昨年度重点取組について、鈴木委員より説明し、意見交換を行った。

6 審議事項及び審議結果

(1) 令和4年度決算について

令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書及び収支決算について、それぞれ亀田委員、事務局から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

(2) 第三期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書について

報告書について、亀田委員から資料に基づき説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

(3) 学長選考会議委員の選出について

各本部長、学部長、事務局（総務室長を除く）退席のうえ、当該事項について審議された。

当該委員の選出について事務局から説明し、谷藤委員が選出された。

6 意見・質問に対する回答等

学外委員の意見・質問等に対する学内委員及び事務局等の回答等は、次のとおり。

・ 奨学金の対象について（報告事項（1）関連）

大学院生への利用の申請拡大の審議状況について質問された。また、大学院まで進んで勉学を希望する学生に対しての配慮が今後必要である旨意見があった。

これに対して、今後も継続する奨学金であることから、その期間中で改めて検討していく旨回答した。

・ 奨学金における成績要件 GPA の基準について（報告事項（1）関連）

GPA2.6以上の成績要件のレベルについて質問された。

これに対して、学部においては3分の1以上にあたる上位に含まれること、また本学独自の学業奨励金と同様の成績要件としている旨回答した。

- **対面授業及び課外活動について（報告事項（2）関連）**

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、対面授業の開始時期及び学生の課外活動の状況について質問された。

これに対し、対面授業は、5類移行に関わらず以前から実施していたこと、また課外活動については、時間や飲食の規制を設けていたが、5類移行に伴い時間や飲食の規制を撤廃した旨回答した。
- **新型コロナウイルス感染症の感染状況について（報告事項（2）関連）**

感染状況について重症化している学生はいるか質問された。

これに対し、重症化した学生はいない旨を回答した。また健康サポートセンターにおいて調査を実施しており、拡大しないよう対応している旨回答した。
- **令和5年度科研費の他大学の採択率について（報告事項（4）関連）**

他大学の採択率について質問された。

これに対して、全国平均の採択率は、令和4年度のもので28.6%となっている旨回答した。
- **「産学官連・連携」システムについて（意見交換関連）**

産学官連・連携というシステムはリエゾン機能をイメージしたものか質問された。

これに対して、企業の持っている能力を引き出すための役割を想定している旨説明した。
- **URAについて（意見交換関連）**

県立大学においてURAを配置する場合、既存のURAに比べるとはるかに広い守備範囲をやらなければならない役割となるが、とっかかりとしてそのような役割の方がいても良いとの意見があった。
- **カーボン・ニュートラル化の取り組みにおける学生の関わり方について（意見交換関連）**

学生提案を取り入れること、また授業科目を拡張しながら、学生のアイディアを取り込むといったことを提言に含めており、力を入れていきたいと考えている旨回答があった。また、カーボン・ニュートラル化の先を見越したビヨンドカーボン・ニュートラル化の取り組みを学生と一緒に進めている旨回答があった。

- **リカレント教育プログラムについて（意見交換関連）**

リカレント教育プログラムのセミナーは、一般企業も参加できるか質問された。
これに対して、一般企業の方も対象としていること、またできるだけ録画の配信も検討しており、さらに詳しく聞きたいという場合には、教員が赴くという形を検討している旨回答があった。
- **Ruby プログラミングコンテストについて（審議事項(1)-①関連）**

プログラミング教室に参加した中学生達が今後県立大学への進学につながる見込みなどは考えているか質問された。
これに対して、中学生の時にプログラミング教室に参加していた学生が今年の教室にボランティアとして参加していたり、また、滝沢の小学校や中学校に対し、ソフトウェア情報学部の学生が作った NPO が授業に関わってもいる例があるが、人的資源が無限にあるわけではないので、そのあたりも考えながら展開をしていきたいと考えている旨回答があった。
- **シラバスの B 評価について（審議事項(1)-①関連）**

なぜ進まなかったのか、もう少し詳しく説明をいただきたい旨意見があった。
これに対して、複数の教員に関わる方法や学生による評価といった方法は、1年や2年ではできるものではない。先生方と色んな議論を進め、一生懸命取り組んでおりじっくりと進めている旨回答があった。
回答に対して、お話を伺うと、次の発展のための B 評価であると分かるので、表現を工夫すると良いのではという意見があった。
- **報道機関への情報提供について（審議事項(1)-①関連）**

25 周年に向けてタグラインを制作し、大学をアピールすることは素晴らしいと思う。以前、新聞への記事についても週に 1 回程度は記事が掲載されるよう取り組まれている話があったが、これは何か情報提供をしているのか質問があった。
これに対して、報道への発表は工夫して行っており、本学の活動を理解いただくことが非常に重要と考えている旨回答があった。
- **減価償却費について（審議事項(1)-②関連）**

資料 9-5 の図の下「当該固定資産の減価償却費（経費）と同額の資産見返負債戻入（収益）を計上し、固定資産の減価償却による損益への影響をゼロにします」の記載の部分について、経常収益に資産見返負債収益として約 1 億 7500 万円計上されているものは、同額の減価償却費がどこかに計上されているのか質問された。

これに対して、その通りであり、物によって様々な所に分割して計上している旨回答があった。

- **運営交付金について（審議事項(1)-②関連）**

運営交付金は毎年減額され続けるのか質問があった。

これに対して、一般管理的なところはシーリングの対象となる部分はあるが、計画期間中に算定のルールを定め、それに基づき積算するため、大きく変更になるところはない旨回答があった。また、人件費について不用額が出た場合、これまでは目的積立金に積んでいたが、今年度末から返却する形となり、仕組みが変わったため、今後の財政運営については、工夫が必要である旨説明があった。

- **男女共同参画のB評価について（審議事項(2)関連）**

目標を達成できなかったというのは非常に残念だと思うので、進捗管理をしっかりとしていただいて、来期は心して取り組んでいただきたいとの意見があった。

これに対して、令和5年度4月時点では、23.9%まで上がっている状況であり、環境整備など策を講じつつ、女性登用を図っていく旨説明があった。

以上